

めどう
**ひながたを目標に歩む
 それぞれの成人への道**



2月19日、雅夕会練習会の様子。記事は4面



発行所
 天理教夕張大教会
 〒068-0029 北海道
 岩見沢市9条西6丁目21
 ☎ 0126-22-1248
 FAX 0126-23-7275
 yubaridai146@gmail.com
 ホームページ
 bariten.main.jp

 LINE 友達登録
 お願いします

会長より皆様へ

私事ですが、昨春秋より地元中学校の同窓会長というものにご推薦頂き、今月8日、同窓会入会式という行事でお祝いを述べる事になりました。二十五年ぶりの母校で、体育館の壇上にながらせて貰い、真剣に務めて参りました。私自身が、人間関係から登校拒否の時期があった中学生を送り出したので、今の子供達に何を言えるのか分かりませんが、今月はその文章をひきよせに掲載して頂き、巻頭と致したく存じます。

「第74期卒業生200名の皆様、三年間お疲れ様でした。卒業おめでとうございます。同窓会会長の藤田と申します。私が3年生の時に、今の校舎が出来ました。本日は皆様の同窓会ご入会を喜び、お祝いの言葉を申し上げます。私は皆様と今日、初めてお会いしますので、皆様にとっては知ら

お知らせ

教祖140年祭全教会一斉巡教 3月～5月
 あらきとつりよう入門塾 4月2日(日)
 月次祭 4月15日(土) 9時30分開扉献饌

ないおじさんが、勝手なことを話しますが、少しの間許して下さい。

自分の生きている時間を、意識して楽しむことは、案外難しい。大人でも難しいです。

中でもこの三年、世間にはずつと、感染症に対する不安と、積極的に行動することへの迷いが漂っていて、そういう大人達の雰囲気の中で、今ここにいらつしやる、卒業生の皆様には、多くの苦勞をおかけしました。一人の大人として申し訳なく思っています。

先生達はできる限りの事をして下さったと存じます。また皆様を毎日送り出して下さった、ご家族の方々も、出来るだけの事をして下さったのだと思います。

過ぎた時間は取り戻せませんが、マスクをつけて入学され、遂にマスクを外して卒業される皆さまにとって、将来、この特殊な三年間の事は、あらゆる場所で、語り草になるであろうと思います。

大変だったね。よく頑張ったね。多くの人が皆様の気持ちを想

い、言葉にすると思っています。皆様には、どうか自分でも、自分の事を認めて、評価し、よく頑張ったと、自分を褒めてあげて欲しいと思います。

最後になりますが、私達大人は、未来のある皆様に、色々な期待や、自分の望みを掛けてしまい、時に苦しめてしまう事があります。

しかし本当は、一人一人の子供達が、ただ今日も元気で、生きて居てくれればそれでいいのです。未来の子供達に誇れるように、精一杯生きる姿を、背中ですすが、私達大人の役目だと思っております。

いつかまたこの学校を思い出し、この町に帰ってきてくれた時には、帰ってきて良かったと思ってもらえるように、親切で、優しい人間の一人でありたいと思います。

皆様の卒業を心からお祝い申し上げます。生まれ来てくれてありがとう。ご清聴ありがとうございました。」

厳寒の中でも、たすけづとめで 世界の御守護を祈る

二月月次祭の様

大寒を越し、節分が過ぎて立春を迎えた北海道だったが、まだまだ寒さ厳しく、各地で毎日のように氷点下二ケタの日が続いていた。また1日で数十センチの雪が降ることはそうなかったものの、日々少しずつ雪が降って、屋根には例年と変わらないかそれ以上の雪が積もっていた。雪かきに難儀した諸兄も多かったことだろう。

2月祭典前日の14日には、3月より行われる一斉巡教に向け、大教会より指名された巡教員が集まって、巡教員研修会が行われた。

15日、月次祭の朝は、冷え込みも落ち着き、また雪も気になる程降らず、参拝に集まるには有難い空模様であった。定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。

講話に先立って辞令交付があり、新たに大教会役員5名、大教会准役員6名が登用され、大教会長より辞令が交付された(名前は4頁)。また大教会長の発声に合わせ、参拝者全員で『諭達第四号』を拝読させて頂いた。

大教会長は講話にて「3月から

5月までの間、全教会に向けて一斉巡教が行われます。それぞれの教会において、巡教員の先生と共に、会長さんをはじめ信者さん一同で、今と同じように諭達を拝読して頂きます。その後、巡教員より、諭達に込められた真柱様の思いと、大教会としての方針・目標を伝えて頂きます。最後に閉会の挨拶をその教会の会長さんにして頂き、この年祭へ向けての教会としてこのように取り組んでいこうと思う、という事をお話して頂きます。是非ともよろしくお願ひします。

この諭達を何度も読むことで、その時その時の自分の心に残る箇所、というのが出てくると思ひます。今の私は『…ひたすらたすけ一条に歩む中に、いつしか心は澄み、明るく陽気に救われていくとお教え下された。』という部分です。世界が陽気ぐらしに向かうよう、小さな事でもひたすらさせてもらおう。その内、自分の心が明るく助けられていく。そして、なるほどやってきて良かった、という姿を見て頂ける、そのように書いてあるんです。それを信じて、私は頑張っていきたいと思っています。

今の私の悩むところは夕張の仲間がどれだけおちばへ帰る事が出来るか、また私がどれだけおたすけに使用していただけるか、というところなんです。どれだけの人がこの教会に縁を頂いて、その人達のたすかりになることを、どれだけ出来るか。教えでは、目の前にいる人の心が楽になるように、優しく親切にさせてもらったら、あとは親神様、教祖が働いて下さる、と聞かせて頂きます。しかし、この三年間でどれだけの事が自分に出るか、と考えた時、プレッシャーで不安を感じてもいます。諭達を読んだ時に感じたのは、心をたすけて頂きたいのは自分自身だ、という事でした。ですが、自分の身、自分の家だけを案じていても、何も種を蒔くことにはならないですね。

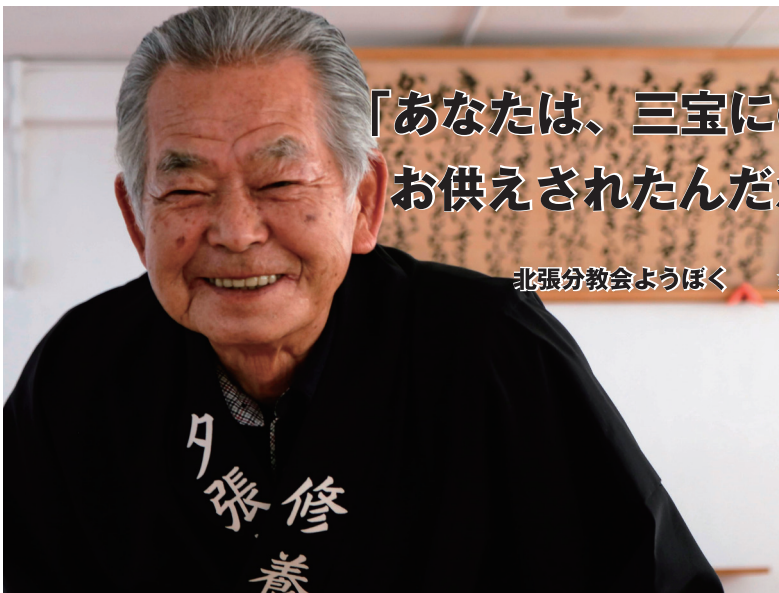
ローガンです。具体的な目標として、『教会毎月ひのきしん』というものを定めました。よふぼく信者それぞれが、一人でも家族でも、自分の所属教会や上級、またおちばでも、神様が待っていただけるところへ足を運んで、ひのきしんをさせて頂く、という事です。私で言えば、おちばへ帰る度に一回でも多くひのきしんをさせて頂くと思っています。おちばで蒔いた種が、必ず北海道で芽吹いてくれると信じています。それぞれの方も、教会で蒔いた種、というのが自分の生活、自分の人生の中で必ず芽が出てきます。困っている事や苦しんでいる事、生きる中で悩みは、おちばに繋がるところで種を蒔くことで解決の芽が吹くでしょう。

夕張は今年で陸級五十年になりました。先輩先生の話をお聴くと、50年前は教祖九十年祭の三年千日の最初の年で、当時の兵神の会長さんが『夕張を本部にお供えするので、これからの御用に存分に使っていたきたい』という思いから、夕張は大教会へと陸級したとのことです。つまり夕張が大教会になって最初のつとめ、というのは年祭活動だったんですね。大教会陸級の勢いを持って、初めての年祭活動に必死で取り組んだ先輩方の働きに思いを馳せ、少しでも勇気をもって私達も頑張っていきたいと思います』と話された。(文・藤崎勇)



辞令交付の様子

ひきよせ613号の1面に、大教会の年祭活動の活動方針を掲載致しました。『世界は親神様のお働きで溢れている。感謝を言葉で伝え合えば私達は成人出来る』というス



「あなたは、三宝にのせて、お供えされたんだからね」

北張分教会ようぼく **森下 良昭**

あなたと自然体の信仰を語る

夕張の「キ」になる人

夕張につながるようぼくさんの中から、年祭に向かうこの旬に、心勇んで活躍される「キ」になる方にお話を伺いましたので、ご紹介いたします。

幼少期、交通事故に遭われたそうですが

6歳のときだったから、当時の記憶はほとんどないです。でも、手術室の風景、それと轢かれた直後に、親父が戸板じゃないけど、板におれを乗せて、病院に連れて行ってくれた記憶があります。あとは事故後に、トラックに轢かれる夢を見たりしましたね。
 まあ、その事故がきっかけで、「あなたは三宝にのせて、神様にお供え

神様を感じた瞬間は

生意気に聞こえるかもしれないけど、「おれには神様がついてるんだ。きつと護っていただけなんだ」って、常にそう信じています。あれだけ大きな交通事故で助けられた自分にとっては、それがごく当たり前の感覚になっています。普通だったら死んでたかもしれないんだからね。

修養科を振り返っての感想は

修養科は長年無事においていたでいていたお礼と、もう一つの理由として、実はひのきしんの勉強に来たんですよ。「一手一つ」っていうのをどうしたらできるんだろうということ。それで、自分もひのきしんさせてもらったり、クラスメイトの姿を見たりして、一つの結論が出ました。
 やっぱり、助け合ってやっていくってのが大きかったです。まずは第一に、人に喜んでもらえ



「きっと神様に護っていただける」常にそう信じています

立てができなくなる。だから、節約と我慢。そして、継続は力なり。つくづく思いますね。
 これができたら、本当になんでもできると思います。これは、自信を持って言える。簡単なようで難しいですよ。でも、すべてが陽気ぐらしへ繋がってくると信じて、続けています。

信仰を伝えるために必要だと思うことは

私が教会から離れた千葉県に住んでいるので、どれだけお手伝いできるかわかりませんが、教会の間口を広げる、つまり、教会が気軽に話ができるような場所になってほしいなと思っています。要するに遊びに来てほしいなど。最初から、「天理教ってなんですか」という人はなかなかいないのが現実。「私、信仰したいんですけど」なんて奇跡に近いですよ。

長い間、「日々の理」を

続けていくそうです

約30年、毎日100円ずつ続けて、それを半年に一度、会長さんが来られたときに、お渡ししています。これは、千葉でお世話になっていて別の教会長さんに、すすめられて始めました。やりだしたときは、辛かった。なんで辛かったかって、単純に、御供するものがなければできない。ジュース飲みたいと思っても、ポケットに入っている小銭を使ってしまったら、次の日の理

営業マンをしていて、そのつたない経験から言うと、「説得」っていうのはモノが売れない。やはり「納得」してもらってから売れる。だから、信仰と営業は一緒じゃないかもしれないけど、「納得」してもらえるような話し方、伝え方が大切だと思えますし、それができるようになる努力を、これからも続けていきたいですね。

75歳 夕張工業高、北海道自動車短期大学卒
 幼少期に、大事故をご守護いただいた感謝から、今なお御恩返しに励む。先月、修養科 987 期修了大教会 HP に、未掲載部分を公開 (右 QR コード)



成人へ向かう、真心の音色響く 雅夕会練習会

真冬の寒さも少し和らいた2月19日、大教会にて雅夕会の練習会が開かれた。

雅夕会として久々の活動となったこの日、初心者を含め10名のメンバーが集まった。また、今回は部外より5名の講師の方をお呼びし、熱の入った練習が繰り広げられた。

開会式では、まずは講師による模範演奏が披露され、音色の安定感や三管の一体感、何より力強い音のパワーに一同圧倒された。その後は箏篋(ひちりき)、龍笛(りゅうてき)、鳳笙(ほうしょう)の3クラスと、龍笛、鳳笙の初心者の2クラスと計5クラスに別れて、管別練習に励んだ。基本的な音の出し方、指の押さえ方から、曲の中における細かなニュアンスや抑揚の付け方など、講師から熱の入った指導が繰り広げられ、短時間でそれぞれが自分の演奏の中に気付きを得たり、着実なス

キルアップをすることが出来ていた。

昼には、おいしい弁当、また清真布の若奥さん二人による手作りケーキを満喫し、充電完了。午後より、再び管別練習に精を出した。

練習会の最後は、参拝場に集合し、合奏練習。一日の成果を発揮するように、綺麗な音色の『越天楽』が神殿中に響き渡った。最後に、箏篋クラス講師の古川先生より「少しずつ練習を重ねていって、それぞれの人生の一部となれば、今後の信仰生活の助けになるので、これからも頑張ってください」と激励の言葉を頂き、短くも濃密な練習会は終了した。(文・藤崎勇)



▲鳳笙初心者コース。雅楽に触れる貴重な機会となった



▲合奏練習の様子。殿内には、「一つ」の心地よい音色が響き渡っていた

少年会よりお知らせ

少年会総会

「3年ぶり」に少年会員が集合して開催します

今年は大教会で、よろづよ八首から十二下りのおつとめをさせて頂きます。

詳しくは、大教会HP内の少年会総会ページ、または教会配布の要項をごらんください。

多くの少年会員、育成会員が集まって開催できるように、ご協力をお願い致します。そして、

「3年ぶり」

こともおぼろげがえり

開催決定!

多くの少年会員をおおげばへ寄せて頂きたいと思えます。

今月の回廊ひのきしん

2月25日13時より、御本部にて、6名で回廊ひのきしんを行いました。(左写真)



部内一斉巡教、始まる

夕張大教会では、昨年11月に行われた本部巡教を受け、部内隔々に、論達の精神をひろめるため、3月3日の八十梅分教会(祝梅部内)を皮切りに、5月末まで部内一斉巡教が実施される。当日は、論達拝読、巡教員講話、そして所属教会長の決意表明と続く。年祭へ向け、各教会の心一つにする大切な時間となるので、一人でも多くの方にご参集いただきたい。

新役員および准役員登用

本年2月15日付で、左記の通り、夕張大教会役員および准役員が、新たに登用された。

○役員

宮本和昭(夕喜元)

藤田 豊(幌都)

富山知一(栗山)

富山睦信(北張)

千葉祐生(大龍)

○准役員

藤崎利男(旭都)

齊藤智明(南幌)

岩佐善昭(志加ノ谷)

梶川文吾(新生生)

千葉真理(北弘)

土屋知子(北網)

庶務部 2月

▽初席

富山 凜花(栗山) 2・23

▽教人資格検定講習修了 2・10

高橋 悟志(祝梅)

▽修養科978期修了 2・27

森下 良昭(北張)

▽おまもり 1件

▽誥所教養掛

3月 藤田豊(幌都)

4月 千葉祐生(大龍)

大教会日誌抄 2月

1日 たすけ推進会議

4日 会長、支部例会、組例会

9日 前会長、札美分へ

10日 会長、北夕分巡教

14日 月次祭準備

15日 月次祭

17日 前会長、札美分へ

18日 会長、栗山四代会長夫妻10年祭

19日 会長、前会長、札美分参拝

雅夕会練習会

20日 会長、保護司活動

22日 会長、保護司活動

23日 会長、おぢばへ

24日 会長、本部神殿当番

前会長、おぢばへ

26日 本部長、おぢばへ

遥拝式

27日 会長、かなめ会

28日 会長、本部研修会